

「GovTech Challenge OKAYAMA 2024」 スタートアップの公募を開始します

岡山市が抱える社会課題、行政課題について、最先端のテクノロジーや斬新なアイデアを持つスタートアップと市が協働で課題解決に取り組む事業「GovTech Challenge OKAYAMA」を実施しており、2024年度に取り組む4課題に参加するスタートアップを募集します。

1 公募期間

令和6年6月14日(金)～7月12日(金)

2 事業内容

「GovTech Challenge OKAYAMA」とは、岡山市が抱える社会課題、行政課題について、最先端のテクノロジーや斬新なアイデアで課題解決に向けた提案を行うスタートアップを公募し、岡山市職員と協働で最適な解決手法を見出し、製品・サービスとして構築・実証までを行う事業です。

2024年度には、観光振興策やごみ問題など4課題についての社会実証を行います。詳しくは別紙をご確認ください。

3 対象事業者

本市職員との協働による社会・行政課題の解決と新ビジネス・サービスの創出を目指すスタートアップ(ゼブラ企業を含む)

4 説明会及び本事業への応募方法

本事業の詳細についての説明会を令和6年6月28日(金)15時からオンラインで実施します。事業の詳細と応募方法については、以下のホームページをご覧ください。

URL:<https://www.city.okayama.jp/jigyosha/0000037586.html>

5 昨年度の実績

昨年度は、5つの課題について、意欲的なスタートアップの方々と社会実証に取り組むことができました。実証実験を行った5つの課題の内、4件については、各担当課にて令和6年度に予算化されています。

【お問い合わせ先】

岡山市 創業支援・雇用推進課 河合・羽納 直通086-803-1342 内線4518・4584

GovTech Challenge OKAYAMA2024の概要

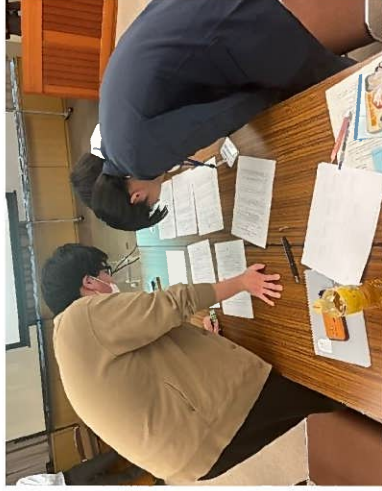
令和6年6月14日
創業支援・雇用推進課

GovTech Challenge OKAYAMAの概要

- スタートアップと市職員が協働して行政課題や社会課題の解決に取り組むことで、スタートアップの成長と市の課題解決を目指す取組
- スタートアップは、市が持つ社会実証フィールドを活用して、自社のプロダクトやサービスの実用性をブラッシュアップして、事業成長を図る。
- 実証実験を行う費用の一部を岡山市が負担し、事業の実効性を高める。

事業スケジュール

庁内課題募集



令和6年4月19日(金)
職員向け事業説明会の開催

令和6年5月上旬
各課より課題の募集

令和6年5月下旬
スタートアップが関心を持ち、実証の効果が期待できる課題を選定

スタートアップ募集・選定



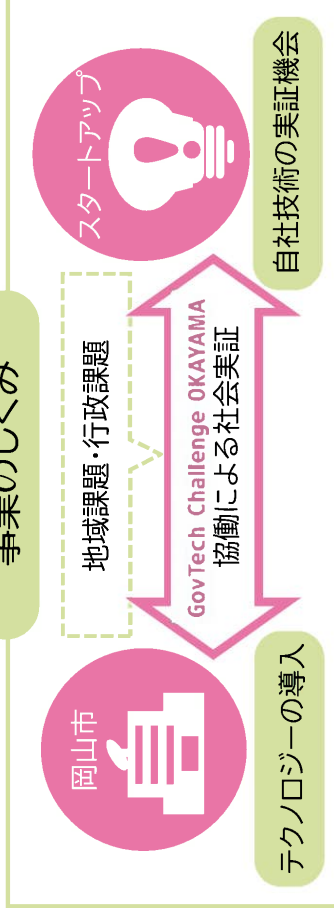
令和6年6月14日(金)～7月12日(金)
課題に取り組むスタートアップを公募

令和6年6月28日(金)
応募企業向けオンライン説明会開催

令和6年7月中旬～8月中旬
書類審査、面談
課題に取り組むスタートアップを採択

※写真は2023年度の様子

事業のしくみ



実証実験



令和6年9月頃～令和7年2月頃
市職員とスタートアップが協働で社会実証に取り組み、課題解決のためのプロダクトやサービスを開発する。

※写真は2023年度の様子

成果発表



令和7年3月頃
成果発表会実施予定

※写真は2023年度の様子

GovTech Challenge OKAYAMA2024（募集課題）

岡山城と岡山後楽園はセット！歴史も知りながら、楽しく巡ってほしい！

観光振興課

岡山城と岡山後楽園は一体的な観光スポットであるが、片方の施設しか行かない観光客も見受けられる。各施設でイベントや周遊コンテンツを実施しているもの、岡山城と岡山後楽園をつなぐルートでは継続的なコンテンツを実施していない。両施設を結びルート上で、安全に、両施設や岡山の歴史を楽しみながら知ることが出来るコンテンツを実証し、回遊性の向上を検証したい。



新しいテクノロジーで可燃ごみに埋もれた資源を活用したい！

環境事業課

可燃ごみの減量化を図るため、令和6年3月からプラスチック資源の分別回収を開始した。次に資源化が可能なものとしては、組成分析の結果から、剪定枝、おむつ、生ごみなどが想定されており、回収方法等について検討を進めている。循環型社会の達成に向けて可燃ごみとして排出されているものを新しいテクノロジーを活用し、資源に変える取り組みを検討したい。



柔軟な運営体制を構築し、誰一人取り残さない防災を実現したい！

危機管理室

災害対策基本法において、個別避難計画の作成は努力義務とされており、町内会(自主防災組織)や民生委員・児童委員、福祉事業者等に対して作成をお願いしているが、岡山市では約1割程度しか個別避難計画の作成が進んでいない。個別避難計画の策定だけではなく、発災した際に具体的な行動につながらず、実際に避難される方や支援する方への直接的なアプローチを踏まえて検討したい。



岡山で働く選択肢を！学生へのアプローチ方法を模索したい！

創業支援・雇用推進課

岡山市内には多くの専門学校、大学があり、学生が多い。学生が企業を選ぶ際の基準や、なにかあれば岡山での就職につながるのか学生のニーズが把握できていない。学生が、岡山市で暮らしたくなる・働きたくなるようなアプローチの方法の模索とニーズの調査、ならびに、東京などの都心に出ている人たちのUI/UXも促したい。

